

【議案1】 2024年度 事業報告

2024年度事業報告目次

1	2024年度事業別活動報告	
1-1	NGOの活動や運営に関する支援	P4
1-2	国際協力に関する調査・提言	P8
1-3	国際協力に関する情報・学習機会の提供	P12
1-4	NGO活動に関する人財育成	P20
1-5	NGO間及び各種団体との連携促進	P22
2	組織	
2-1	組織運営・体制	P26
2-2	会員	P28
別添	明日のFUNNプロジェクト（中期計画）	P29

2024年度重点項目：明日のFUNNプロジェクト（以下明日FUNN）の取り組み項目より

1-2（NGO支援）新規団体等を対象に、組織基盤を整えるための勉強会を開催する。

2-1（調査提言）今後FUNN主催スタディーツアーを実施できるよう、24年度より調査・検討する

3（情報・学習機会提供）

1 NGO相談のアウトリーチとして、まず県内4か所で国際協力に関する入門や相談の機会を作る。

2 FUNN独自のNGO相談員チラシを作成し、利用を促進する。

3 フェアトレードをテーマに盛り込んだNGOカレッジを企画する。

5（新規事業）在留外国人支援団体のプラットフォームづくり事業に3団体協働で取り組む。

◆FUNN職員行動指針・・・

「人と世界をつなぐ」

「国際協力に関心があり、世界を知りたい・行動したい・サポートが欲しいと思っている人たち」に向けた活動。世界で起こる問題と私たちの暮らしとの関係性、私たちにできる関わり方や、必要な知識とスキルを伝えていく事で、国際協力への次の行動や選択肢を見つけることができる人を増やしていく。そうした人々が加盟団体につながることで、活動の活性化、発展を促す。

「NGOに関わる人と人をつなぐ」

「加盟団体の理事・職員・支援者・参加者」に向けた活動。同じ国際協力に関心を持つ人や、似た環境にある人同士や世代を超えた関係性をつくり、お互いの学びの場や居場所と感じられる場を提供する。加盟団体における個人同士のつながりを生み出すことで、組織間の協力を促進する。

「NGOと他セクターをつなぐ」

「NGOと、企業・教育機関・行政などの他セクター」に向けた活動。セクター間の協働への関心を引き、具体的な事例を紹介し、連携に向けてのアドバイスを行い、NGOと他セクターのつながりを生み出す。協働の可能性と力を広げていくことで、NGOの社会的基盤づくりを促進する。

1. 2024年度事業別報告

1-1. NGOの活動や運営に関する支援

1-1-1. 2024年度の方針

研修・団体間交流や広報協力を通じた活動における組織・能力強化支援と、助成金事業による資金的支援の充実を図り、団体活動の活性化を目指します。必要に応じて新規事業（有償支援事業等）も検討していきます。

[明日FUNN目標]

- ・九州のNGOのための資金・基金作りができています。
- ・加盟団体が増加し、交流・情報交換の場となっている。
- ・新規事業（海外事業・有償支援事業等）について検討し必要に応じて実施できている。

1-1-2. 2024年度の活動

① 正会員団体の資金調達、NGO活動強化に資する情報の提供

■ 情報提供や人材紹介

○計画：FUNN公式ホームページ、メールマガジン、機関紙（国際協力ニュース）等を通して、NGO関連情報や助成金情報の提供、人材・ボランティア紹介などを行います。外務省・JICA等からの情報を関係団体と共有するほか、FUNN独自にも情報収集を行ない、メールマガジン等による配信・案内を行います。

○実施内容：FUNN公式ホームページ、メールマガジン、機関紙（国際協力ニュース）等を通して、NGO関連情報や助成金情報の提供、人材・ボランティア紹介などを行いました。外務省・JICA等からの情報を関係団体と共有するほか、FUNN独自にも情報収集を行ない、メールマガジン等による配信・案内を行いました。定期講読者に年間27回発行したメールマガジンでは、助成金情報のほか国際協力・NGOに関わるお知らせの提供を行いました。他に正会員団体へはメールマガジンとは別に助成プログラムやNGOスタッフ向け研修、政策提言に関する意見募集等団体運営に関する情報を適宜共有しました。

○成果：上記の実施により、イベントや研修情報だけでなくNGO向けの助成金、緊急支援に関する情報等を幅広く共有することができました。また、FUNNが受けたNGO相談内でボランティアの参加に関する問い合わせの際に関係機関や正会員団体への紹介も行うことができました。

② 広報活動の支援

■ 情報の発信

○計画：ウェブサイト、SNS、メール、機関紙等を通して、加盟団体を中心としたNGO等の情報を市民に発信します。

○実施内容：正会員団体から依頼を受けた情報をホームページやメールマガジン、機関紙（国際

協力ニュース本文とチラシの挟み込み）を通じ市民や関連機関に発信しました。その他にも独自に収集した正会員の活動情報やNGOの研修・イベント情報、また市民からの関心が高いウクライナやパレスチナ地区の緊急人道支援、NGOが実施する各国の災害緊急支援活動や募金に関する情報も適宜発信しました。ホームページでのNGO情報紹介は17件、メールマガジン（27回発行、登録者数377（2025年3月末））では毎回5件以上の団体イベントや募金情報を掲載しています。

○成果：上記の実施により、正会員団体の活動や募金情報を中心に、他のNGOが行う関連活動情報を関心のある市民や関係者に届けることができました。

③ NGOの組織・能力強化の支援

■ 九州地域NGO活動助成金

○計画：宗教法人真如苑とFUNNとの協働で、加盟団体を中心とする九州地域のNGOを対象にした助成金プログラムを企画、実施します。2024年度も引き続き国際協力支援事業及び多文化共生事業に関する事業を助成対象といたします。引き続き活動フォローアップや報告、団体間交流の機会等内容の一層の充実を意識しつつ実施していきます。

【明日FUNN計画24】

- ・団体ニーズの掘り起こしを引き続き行い、新規申請団体の増加を目指す。
- ・交流の場を設け、事業実施団体同士の交流を促進する。

○実施内容：令和6年度の助成金事業も前年度同様、(1)組織基盤整備の支援（最大10万円助成）と(2)プロジェクト支援（最大20万円助成）の2枠で実施しました。公募の結果8団体（内2団体が新規応募）から応募があり、審査会を経て全団体採択されました（1団体は条件付き採択）。このうち1団体は採択通知後に辞退、もう1団体は入金後採択事業の実施が困難となったため事業の中止と採択金の返金がありました。令和6年度の採択事業は海外プロジェクト2件、国内プロジェクト5件、海外・国内プロジェクトが1件となり、組織基盤強化枠での応募はありませんでした。

また、これまでは事業の報告が今まで報告書類のみで、団体関係者の方から直接報告を聞く機会が今まであまり作ることができていませんでしたが、令和6年度は4月26日に前年度の採択事業報告会を団体の方に集まって対面で開催しました。今後も報告会を毎年度開催できるよう年間スケジュールとして定期開催を行っていく予定です。

当助成金事業は令和6年度で10年目の節目を迎えましたので、これまでの助成金事業をまとめ報告書類（記念冊子）を2025年6月末までに発行を目指します。

- ・公募期間：2024年7月26日（金）～8月27日（火）/募集説明会：8月2日（金）
- ・審査会：9月16日（土）
- ・採択事業実施期間：2024年10月1日（それ以前に開始も可）～2025年3月31日
- ・当助成金による実施事業（他に採択事業中2件辞退あり）

□（任団）フレンズ国際ワークキャンプ九州

事業名：「フィリピンの貧困村でのインフラ整備事業」

□（特活）バングラデシュと手をつなぐ会

事業名：「多文化共生のためのイスラム教徒理解向上プログラム」

□（特活）ISAPH

事業名：「案件化調査：ラオス農村部における子ども栄養改善に関する現状と課題」

□（任団）子どもに能楽を勧める会

事業名：「子どもと留学生の能楽発表会と留学生との交流会II」

□（任団）セミナー企画室コスモポリタンス

事業名：「コスモポリタンスセミナー」

□オイスカ西日本研修センター

事業名：「人材育成事業」

○成果：過去最多の応募件数だった前年度と比較して応募件数は減少したものの海外・国内様々な分野で活動されている8団体からご応募いただきました。何度が活用いただいている団体については、これまで組織基盤の強化やプロジェクト実施を当助成金事業を活用して取り組んだことで事業実施の能力向上や団体運営含め組織として発展している様子が申請書類や審査会でのプレゼンテーションでも伝わり、当助成金事業のねらいである「助成団体の事業実施能力、運営基盤能力の強化」が着実に進んでいることが実感できました。また初めて応募の団体もあり、10年目を迎えた当助成金が多く団体に活用していただける事業として広がりができております。また、採択後に団体より事業実施が困難と判断され、辞退されたケースがあり、助成金を有効に活用していただくという観点から課題が残りました。今後検討していく予定です。



▲報告会の様子



▲審査会の様子

■ NGO組織強化研修

○計画：2024年度は、2023年度のNGO団体調査やNGO相談員を通じて見えてきた課題を整理し、新規の研修や支援事業を検討していきます。

【明日FUNN計画24】

- ・（重点課題）新規団体等を対象に、組織基盤を整えるための勉強会を開催する。

○実施内容：相談や助成金でつながりのできた団体に声をかけ、6団体で「組織作り～特に一般社団法人について」の勉強会をハイブリッドで実施しました。6月14日（組織とは）、6月29日（一社の立上）、7月19日（定款）、8月28日（登記）、10月4日（助成金申請・資金計画）、1月27日（情報セキュリティ研修に参加）

○成果：参加頻度にはばらつきがありましたが、勉強会を契機に、団体の定款を整えた団体、登記検討を継続されている団体（任意団体として活動中）、助成金申請に結びついた団体、個人情報保護規定等の策定に取り組まれた団体などがありました。またお互いの活動内容や状況を共有し、団体同士のつながりができたことも成果と考えます。

■ 加盟団体支援

○計画：新規事業（海外事業・有償支援事業等）について検討し必要に応じて実施していきます。

○実施と成果：加盟団体より会計業務に関する相談があり、2024年度前半、記帳代行についての有償支援を行いました。後半に再度継続の依頼がありましたが、相談の結果、ソフトを導入、FUNNは相談に応じました。成果としては、団体の組織基盤を整える支援となったと考えています。

■ 加盟団体交流会

○計画：加盟団体の交流会を定期的に持てるようにしていきます。こうした機会を通じ、団体のニーズを把握し必要な研修等を実施できるようにしていきます。

○実施内容：今年度は以下の交流機会を設定しました。

- ・5月19日 定期総会終了後、交流会（びおとーぷ・オンライン）。10団体参加
- ・6月5日 西南学院大学NGO合同説明会。5団体参加し、お互いの交流機会にもなった。

○成果：各団体の活動実施状況、課題や取り組みの工夫の共有ができました。今年度新しく入られた団体もあり、交流の機会となりました。こうした中でのニーズ把握から、情報セキュリティ研修（1月）の呼びかけにつながりました。

■ FUNNとしての基金作り

○計画：緊急支援基金等FUNNとしての基金作りについて検討します。

○実施内容：今年度は他事業の実施スケジュールの関係上、協議する時間を持つことができず、実施できませんでした。

1-2. 国際協力に関する調査・提言

1-2-1. 2024年度の方針

NGOのネットワークとして、NGOや市民全体にかかわることに関して、調査・提言活動に取り組みます。様々な機会を捉えて九州地域の国際協力にかかわる団体が地域でどういう問題を抱えているかを知り、提言につなげていくよう努めます。

[明日FUNN目標]

- ・ 調査研究を行い、シンクタンク機能が果たせている（関連委託事業を受託する）。
- ・ 調査等に基づき、必要な提言活動ができている。

1-2-2. 2024年度の活動

下記活動を通じ、国際問題の調査・研究および国際機関・政府等への政策提言活動を行いました。

■ 2024年度NGO・外務省定期協議会 ODA政策協議会

○計画：ODA政策協議会に参加し、情報提供を行います。

○実施内容：ODA政策協議会に参加し、情報を理事会等で共有しました。次期コーディネータの呼びかけに協力し検討しましたが、推薦に至りませんでした。

- ・ 6月21日 NGO-外務省定期協議会全体会議
- ・ 7月26日 第1回ODA政策協議会：テーマ～開発のための資金動員有識者会議について、外務省R6予算概要、フィリピン巡視船支援について
- ・ 12月6日 第2回ODA政策協議会：テーマ～有識者会議提言について、フィリピン鉄道改修事業におけるJICA職員による情報漏えい問題、国際協力局機構改革、ODA広報、国連未来サミット、ブラジルG20関連
- ・ 2025年3月18日 第3回ODA政策協議会

○成果：状況をフォローアップし、その内容を理事等関係者と共有できました。コーディネーターの件など近年積極的な関与はできておらず、課題が残りました。

■ 2024年度NGO・外務省定期協議会 連携推進委員会

○計画：連携推進委員会の委員として参加し、全国の現場で活動するNGOと連携し、NGOの立場から外務省と協議を行います。

○実施内容：FUNNから事務局長安村が連携推進委員会NGO側委員として参加しました。NGO環境整備事業（以下N環）提言チーム、NGO連携無償資金協力（以下N連）提言チームに参加、外務省との協議の場として、全体会議1回、連携推進委員会3回、他に外務省NGO協力室とのTF（N連・N環・全体）、NGO側委員会合、N環・N連会議、賛助会員向け会合に出席。年間を通してN環、N連その他に関する情報提供、NGO側意見のとりまとめ、提言、外務省との協議などを行いました。

【主な動き】

・予算不足が見込まれていたN連新規申請に予算額に応じた按分を外務省担当室に提案し、提案が採用された。N連予算枠拡大も要望しているが、ODA全体が減額傾向にあり難しいとの回答が続いている。

・7月4日 第1回連携推進委員会（外務省・オンライン）：N連の状況確認、NGO／N連実績の可視化（ウェブ上に実績マップのページ作成）・NGO能力強化スキーム・「NGO＝戦略的パートナー」具体化（テーマ別棚卸、国際機関連携）を提案した。

・11月にはN環受託団体へのヒアリング実施。12月には来年度のN連実施要領の改定希望箇所についてNGO側の意見を取りまとめ、N協室と協議した。

・12月12日・13日 第2回連携推進委員会（北海道・オンライン）と合宿：先住民族への対応、「開発のための新しい資金動員に関する有識者会議」提案を受けた検討、N連の現状と来年度に向けた検討、オファー型協力の概要 について協議した。合宿ではN協室・JICA職員も交えた意見交換や「N連見える化」、N環ヒアリング結果や今後についてなどを検討した。

・2月に次年度N連採択枠についてNGO賛助会員アンケートを実施し意見をまとめた。

・3月24日 第3回連携推進委員会（外務省・オンライン） 報告：NGO研究会、N環に関する検討状況、N連第三者評価 協議：今年度N連の実績、来年度の実施、在外における邦人支援者間連携促進、ODA戦略パートナー化に向けた連携案を協議した。この中で、次年度N連申請については金額枠は設けず、複数年度案件を当初予算で、その後確保できた予算で単年度案件を採択していくことが説明された。この場では言及がなかったが、一定の質を保った上での新規参入枠の設定も検討されることになった。

○成果：外務省のNGO関連スキームを中心にNGO側の要望・意見のとりまとめ、協議を行い、N連要項や採択枠などにNGO側の意見が反映されるという成果を得ました。N環スキーム改善と新規スキーム提案に関しては予算の制限はあるが検討していくとの回答を得ています。

■ NANCiS 市民社会スペースNGOアクションネットワーク

○計画：広く市民社会組織として、国際協力NGOとして、市民社会スペースを確保し国際協力NGOが相互に協力する仕組みとして設立された市民社会スペースの構成団体として関わります。

○実施：NANCiSの構成団体となり、世話人会に藤井理事が可能な折に参加しました。

藤井理事は2024年共同代表になっています（5月21日選出）。

・世話人会隔月実施、市民スペースに関わる情報交換や運営について話し合った。

・9月20日 弾圧対策研究会（西サハラ難民キャンプ報告会の会場拒否の件など）

・2月21日アニュアルミーティング「世界と日本の市民社会スペースの現状を概観し、今後を考える」

○成果：昨今の国内・世界情勢の中、市民社会スペースの問題はさらに大きくなっている。

今年度、十分な参加はかなわなかったが、継続することで情報共有や、関連企画の情報発信などを行うことができた。

■ NGO非戦ネット

○計画：国際協力に関わるNGOやグローバルな観点から市民活動に関わる市民社会組織による安保法制案や戦争政策に反対するための継続的で緩やかなネットワーク団体であるNGO非戦ネットの活動に参加します。

○実施内容：

- ・9月18日衆議院会館 非戦ネット主催報告会：軍事化する国際協力にNO！～戦争リスクを高めるフィリピンとの「準同盟」

- ・NGO共同声明「停戦を、今すぐに。」（パレスチナ）賛同。10月5日報告会と声明発表・キャンドルアクションが増上寺（東京）で。

- ・2月12日 OSAに関する意見交換会 衆議院会館（議員8名秘書5名外務省担当課出席）

- ・3月26日 呼びかけ人会合 今年度の振り返りと今後のテーマ

○成果：NGO声明にFUNNも賛同し、関連情報を発信することができました。

■ NGO-JICA協議会

○計画：NGOとJICAの対等なパートナーシップに基づき、より効果的な国際協力の実現と、国際協力への市民の理解と参加を促進するための意見交換の場であるNGO-JICA協議会（以下NJ協議会）にFUNNよりNGO側コーディネーターとして委員を送り、参画します。

○実施状況：FUNNより加盟団体ISAPH事務局長佐藤優氏をNJ協議会担当者とし、コーディネーターとして参画していただきました。参加会議は下記以外にコーディネーター会議4回、JICAとの会議4回（議題調整など）。協議会には事務局からも参加しました。

【主な動き】

7月4日 連携推進委員会との合同会議（外務省とJICAのNGO向けスキームの重複検討）

7月12日 九州ブロックNJ議題収集会議（オンライン、5団体参加）

7月19日 NJ協議会 NGO会議（正会員の集い）

9月10日 2024年第1回NJ協議会：協議テーマ～2024援助の透明性インデックス（ATI）報告書とJICAの取組、紛争国や人道危機国への支援、各地域における取組、NGOと国際協力推進員の連携、NGO支援における外務省とJICAの役割分担

3月11日 2024年第2回NJ協議会：協議テーマ～JICAにおけるサステナビリティ推進、HDPネクサス（人道・開発・平和の推進）の推進に向けたNGO-JICA間の連携強化（勉強会報告）、市民参加協力事業の現状及び今後の方向性

○成果：7月に九州のNGOの意見集約ができたこと、継続的な協議のため2023年にNGO側から提案された草の根技術協力等のスキームについて提案に沿った検討が進んでいることなど

の成果が見られました。

○所感（コーディネーター）：今回初めてこの役割を受け、①NGO側の意見の多様性（NGOを代表して発言することには注意が必要）、②JICAとより良い共創関係を作るための課題（対抗的姿勢だけでは難しい）を感じた。

■ FUNNとしての政策提言等の発信

○計画：【明日FUNN計画24】

・世界の情勢やそれに関わる提言の発信をFUNN独自にも行っていく。

○実施：様々な提言への賛同という形では行っていますが、FUNN独自の提言発信には至りませんでした。引き続き課題としていきます。

■ 九州地域NGOについての情報収集・整理

○計画：下記項目に重点を置いて、九州地域のNGOより情報収集を行います。

【明日FUNN計画24】・（重点課題）今後FUNN主催のスタディーツアーを実施できるよう、24年度より調査・検討を行う。

○実施：2024年度前半、加盟団体等へスタディーツアーに関する問い合わせを行いました。この中で2024年度カンボジアの終了事業のその後を回るJVC九州ネットワークのスタディーツアー（9月8日～13日）に参加しました。他の加盟団体スタディーツアーは、特定の大学・分野に限定し一般参加は受け入れていないケース、学生による自主的ワークキャンプ実施、現地状況等によりツアー実施のない団体などでした。またツアー自体様々な要因で参加費用が高くなっており、特に学生の参加の障壁となっていることがわかりました。

○成果：今後検討する上での課題がわかりました。そのためすぐツアー実施というより、継続して検討していきたいと思います。成果としては、参加したスタッフの現場理解が深まり、FUNNの事業全体に活かせることも挙げられます。



▲JVC九州カンボジアスタディーツアーの様子

1-3. 国際協力に関する情報・学習機会の提供

1-3-1. 2024年度の方針

潜在層・関心層の掘り起こしや、層の中や外がつながるための場づくり・工夫に取り組み、国際協力の活性化を目指します。今年度は特に市民向け加盟団体紹介の機会作りに取り組みます。このための情報発信の仕方を検討していきます。

〔明日FUNN目標〕

- ・九州地域の国際協力についての発信と周知ができています。
- ・特色あるイベントが実施できている。
- ・市民の中で国際協力の民間団体のまとめ役として知名度が上がっている。

1-3-2. 2024年度の活動

① 国際協力に関する情報の提供

■ 国際協力ニュース（6月、9月、12月、2025年3月発行）

○計画：国際協力、NGO、加盟団体、FUNNの活動の情報発信ツールとして、広く市民に読んでもらえるような紙面づくり・広報誌を目指します。発行は年に4回（600部）とします。

○実施：年4回発行し、正会員団体、個人会員、地域NGO/NPO、教育機関、行政等の施設に配布しました。またNGO相談員案内チラシや正会員団体へ告知などの発行物をニュース発行時に同封することで、正会員団体や関係機関の情報発信に協力しました。また部数に関しましては、600部発行した際に、配布後の残部数が想定よりも多くなってしまっていたことから、153号以降は500部発行としています。

- ・151号（6月発行）：巻頭：顧みられない熱帯病（NTDs）とNTDs youthの会活動について
- ・152号（10月発行）：巻頭：当事者が取り組むそれぞれの多文化共生の活動について
- ・153号（12月発行）：巻頭：COP29に参加して～共通だが差異ある責任と被害に目を向けて～
- ・154号（3月発行）：巻頭：紛争鉱物とコンゴの現実～私たちにできる支援とは～

○成果：ニュースの発行、チラシ同封等によって、国際協力に関わる話題の提供や、FUNNの活動についての広報の実施、各団体の活動に関する広報協力を行うことができました。

■ メールマガジン「Fun ! Fan ! FUNN !」（隔週金曜配信）

○計画：加盟団体を中心とするNGOのイベントやボランティア情報などを掲載し、行動のきっかけとなるメールマガジンを目指します。発行は隔週金曜日とします。尚、発行頻度や形式に関しては今年度改変に向けて検討する予定としております。

○実施と成果：今年度はメールマガジンをテキストメールから画像挿入が可能なHTML形式のメールに変更しました。また今まで配信で使用していたSalesforceからBenchmarkというメール配信システムに変更しました。メールマガジン購読者管理や配信の操作性が改善された他、メールマガジンの見た目も変わり、実際に購読者より以前より見やすくなったというお声も頂きまし

た。次年度以降の改善すべき課題として購読者管理の見直しや情報収集、編集方法についてマニュアル策定等があげられます

■ 公式ホームページ・ソーシャルネットワークサービス（定期発信）

○計画：FUNN公式ホームページとFacebook、X、Instagramなどのツールを連動し、FUNNや加盟団体のイベント、活動情報を市民に提供します。

・公式ホームページ： NGO相談員報告や加盟団体の活動・イベント情報等ホームページの定期更新の頻度を上げ、最新の情報提供に努めます。

・SNS： 2024年度も引き続きSNS（Facebook、X、Instagram）を活用して、NGO相談員やFUNNのイベント、加盟団体からの情報を効果的な発信を行います。

○実施状況と成果：

2024年度も前年度と同様にイベントの告知や活動報告を中心として情報発信を行いました。イベント告知やNGO相談員の周知に関しては、今まで関わりのなかった市民の方や学生の方から参加申込や相談対応に関する問い合わせを多くいただき効果的に活用することができました。また、各SNSのアカウントフォロワー数も前年度と比べて増加傾向にあります。次年度以降も積極的な発信を心がけ、購読者数の増加、また実際の問い合わせ件数の増加に寄与できるよう心がけてまいります。

24年度の課題として、発信や記事編集に十分な時間を割くことができず前年度と比べて投稿数が減少したこと、また投稿者によって文章量や内容にばらつきがあることでした。今後は統一ルールの策定や生成AIを活用して編集作業を効率化させて、もっと気軽に発信できる仕組みづくりを検討していきたいです。

※2024年04月01日～2025年03月31日の登録者数の推移

Facebook	1,014→ 1045	フォロワー数
X(Twitter)	927→ 950	フォロワー
Instagram	249→ 306	フォロワー
FUNNホームページ	11,110	UU(ユニークユーザ/年)

② 国際協力に関する学習機会、参加の場作り

■ 倶楽部FUNN（隔月開催予定）

○計画：国際協力に対する理解を深め、国際協力に関心のある市民が出会い・交流を深めることを目的に、学びとコミュニケーションの得られる場を開催します。内容は加盟団体を中心とした国際協力に関わる方をゲストスピーカーとして呼びし、開催します。

○実施：以下の内容をオンライン開催と対面開催を併用しながら4回開催しました。参加費は原

則無料とし、参加申込の際に任意で「ゲストスピーカーの活動応援チケット」と「FUNN応援チケット」を併せて販売し、寄付の協力を呼びかけました。

開催日	タイトル	講師	参加者数
6月7日	『外国人と働くことが当たり前になる時代へ ～気持ちよく協働するために大切な3つのこと～』	那波多目 健太さん(Colorbath)	11名
8月17日	納涼会	なし	12名
10月26日	『カンボジア視察報告会』	松崎浩平（FUNN）	8名
3月28日	『世界をよりよくするための第一歩inウガンダ ～JICA海外協力隊60周年記念～』	吉原伸彦さん(JICAデスク福岡国際協力推進員)	16名

○成果：2024年度はオンラインと対面による開催を全4回行い、計47名の方にご参加いただき、様々なテーマで国際協力の実践者や多文化共生に関わるお話を伺うことができました。応援チケットを通じ、スピーカーの活動とFUNNへのご支援もいただくことができ、参加者同士がそれぞれの回のテーマに応じて意見交流を行うことで、学びを深めることができました。しかし、例年では隔月で6回行っていたものが、ほかの事業との兼ね合いから4回になってしまいました。来年度は計画的に事業を進め、全6回の開催ができるように努めます。



▲倶楽部FUNNの様子



▲倶楽部FUNN案内画像

リモート倶楽部FUNN6月

『外国人と働くことが当たり前になる時代へ
～気持ちよく協働するために大切な3つのこと～』

2024年6月7日（金）
19:00～20:30 @Zoom



■NGO合同説明会

○計画：大学生にFUNNの正会員団体をはじめ、福岡・九州で活動するNGOの活動について理解してもらう場として、またNGO団体が大学生へ自団体の活動やスタディーツアーやボランティア、インターンシップ等に参加するきっかけづくりとして西南学院大学ボランティアセンターと協働で開催します。

○実施内容：下記の通り実施しました。今年度は前半に「国際協力と福岡のNGOについて」というタイトルでNGO福岡ネットワークの多原より25分程度講演を行いました。その後、団体紹介を行った後、団体ごとにブースに分かれて団体の活動についての個別説明会を実施いたしました。個別説明会では、加盟団体のスタディーツアーや活動紹介、加盟団体外ではワークキャンプを実施しているNICEによるツアー紹介が行われました。

日時	企画名	会場	参加団体数	参加学生数
6月5日（水） 15時半～17時半	NGO合同説明会 in 西南学院大学	西南学院大学 2号館8階大会議室	5団体	47名

○成果：参加者に国際協力やNGOについて、その関わり方を知ってもらうきっかけを作ることができました。参加した学生からは「今回参加できたことによって自分がやりたいことやチャレンジしたいことが明確になり、本当に知れて良かったと思った。」「NGOとはどういう仕組みなのか、どういう取り組みがあるのかを知れた。今まで国際協力には関心があったがそういう活動に参加できたことがなかった為、今後参加したいと思った。」との声をいただき、学生のNGOに対する関心や今後のNGOの活動への参加への意欲を高めることができたと感じています。



▲全体説明の様子



▲ブースの様子

■ 第24期NGOカレッジ『身近なものから「知る」「学ぶ」国際協力』

○計画：一般市民を対象に国際協力の理解・参加促進を目的とした国際理解事業を企画、実施します。

【明日FUNN計画24】

- ・（重点課題）フェアトレードをテーマに盛り込んだNGOカレッジを企画する。

○実施：2月15日～3月1日の期間で、『身近なものから「知る」「学ぶ」国際協力』を全体のテーマとし、全3回の講座と番外編1回も含めた計4回の講座を下記の内容にて実施いたしました。それぞれの回においてワークショップや試食会を設けるなど、これまで活動に参加したことがない方でも参加がしやすい講座内容を目指して開催しました。

	開催日時	場所	テーマ	講師	人数
第1回	2月15日 14時～16時半	福岡市国際会館 第二会議室	スマホから知る「わたしとアフリカのつながり」	伊藤 あかり さん (認定NPO法人テラ・ルネッサンス 職員)	7名
第2回	2月22日 14時～16時	ふれあい貸会議室 天神No130	ハーブティーから知る「カンボジアで雇用が生まれるしくみ」	西口 三千恵 さん (デメテルハーブティー 代表)	9名
第3回	3月1日 14時～16時	福岡市国際会館 第一会議室	アフリカ雑貨から知る「女性の暮らしを支えるしくみ」	渡邊 亜美 さん (AfricAsia(アフリカアジア) 代表)	13名
番外編	2月28日 19時～21時	福岡NPO共同事務所びおとーぷ	ワインから知る、平和がひろがるしくみ	関根 健次 さん (ユナイテッドピープル株式会社 代表)	11名

○成果：参加者数としては想定よりは少なかったが、参加者の方々全員がイベント内容に関心を強くもっておられ、ワークやディスカッションの場面では積極的な参加が見られました。全体を通して8割の方から大変満足したという評価を得ることができ、参加者の中には、第2回に参加し内容が良かったことから第3回にも参加した、という方もおられました。参加者の中には高校生や大学生の姿もあり、今回初めてこういった国際協力の講座に参加して、自身も取り組みに参加したいという感想も聞くことができ、このように参加のきっかけを提供できたことは大きな成果だと考えます。



▲講座の様子（第二回）



▲講師と参加者との集合写真（第三回）

■ 外務省NGO相談員

○計画：外務省 NGO 活動環境整備支援事業「NGO 相談員」として、市民・企業・行政・教育機関等からの NGOや国際協力に関する相談業務を行います。2024 年度は対面・オンライン両方での対応を継続、またアウトリーチ活動（福岡県内 4 か所で無料の相談会の開催）や FUNN 独自でチラシ作成し、九州各地域の市民活動センターに配架して頂くことで、一般市民への NGO 相談員利用促進につなげるほか、配架を通じて九州各地の市民活動センターとの連携促進を進めていきます。

相談対応業務：九州地域の一般市民や他セクターの国際協力に関する理解を促進、九州地域の NGO 団体の組織基盤強化と活動の充実を支援する

- ・広報：NGO相談員制度を広く九州圏内に知ってもらい、必要時の相談につなげる

【明日FUNN計画24】

- ・（重点課題）NGO 相談のアウトリーチとして、まず県内 4 か所で国際協力に関する入門や相談の機会を作る。
- ・（重点課題）FUNN 独自の NGO 相談チラシを作成、一般市民の相談員利用を促進させる。教育機関との連携拡充にこのチラシを通じて取り組む。

○実施：2024年度もNGO相談員を受託し、NGO支援と一般からの問い合わせに対応しました。

（指標目標と実績）

	実績合計	目標		達成率
出張サービス	6 件	7	件	86.00%
S N S リーチ	25,925 件	28,000	件	93.00%
相談	413 件	450	件	92.00%

- ・福岡県内市民活動センター等における相談対応4回
- ・相談後に実施する相談者アンケートでの満足度 80%
- ・九州内各地の国際協力・市民 活動窓口へのチラシ配架
- ・FUNN独自のNGO相談員活用を促すチラシを作成し、活用しました。課題であった教育機関への配布はできておらず、次年度取り組む予定です。

○成果：相談件数は413件と前年度を下回り、さらに目標件数を達成することができませんでした。市民活動センター等での相談対応は、福岡県内4か所4回、長崎市内1回計5回実施。対面相談者に対する相談者アンケートでは回答のあった方の91%（56人中51人）から満足、大変満足との回答をいただいていたいました。

前年度同様、丁寧な伴奏支援を心がけたことにより特定の方より定期的に相談対応させて頂くことが増え、以前よりも相談者との密接な関係性を構築することができました。今後は現在定期的に対応している相談者から別の新しい方の紹介を行っていただけるよう呼びかけ行っていきます。

相談者内訳では「NGO関係者」が1番多く組織運営・マネジメントに関連する問い合わせに多く対応した他、「学生・生徒」の方からは「インターン・就職相談」が数多く問い合わせがありました。特に国際協力分野でのキャリアパスや資格、進路相談のニーズが高かったためNGO職員やその他、国際協力分野で関わる様々なセクターの方のキャリアの事例を集めて多面的に提案やアドバイスができるよう、今後情報収集の強化を行っていきます。

広報については外務省からのNGO相談員チラシの他にも独自の相談員制度紹介パンフレットを制作して活用事例を分かりやすく紹介するよう心がけたほか自団体で定期発行する国際協力に関する情報を行う機関紙内でも相談員紹介記事を掲載することで1人でも多くの方に知ってもらいきっかけづくりを行いました。SNSでの情報発信は前年度に比べ定期的な発信が出来ず、発信記事数・インプレッション数共に件数が伸び悩みました。今回の反省を踏まえ相談員紹介の記事のコンテンツの充実させるほか、スケジュールを立て定期発信を行うことを対策として実施します。



▲作成したFUNN独自の案内冊子（表）

▲作成したFUNN独自の案内冊子（裏）

■ NGO相談員「出張サービス」

○計画：市民などからの相談対応を通した国際協力の理解促進を目的に、国際協力関連のイベントなどにおける相談対応や講演活動を積極的に実施します。対象は九州ブロックの7県、全県での実施を目指します。

○実施：年間6件（福岡・佐賀・長崎・熊本・宮崎・鹿児島）で実施しました。

・出張サービス件数：6件（目標7件）

日程	出張先	場所
2024年7月30日・31日	FUKU-NETパネル展	福岡県福岡市
2024年11月24日	さが国際フェスタ	佐賀県佐賀市
2025年2月1日	NGO入門講座＆相談会	長崎県長崎市
2025年3月26日	熊本県の熊本市国際交流振興事業団他との個別相談会	熊本県熊本市
2025年3月26日	宮崎県の宮崎県国際交流協会他との個別相談会	宮崎県宮崎市
2025年3月30日	学習会「国際協力って遠いこと？～私達が身近で何ができるか考えてみましょう」	鹿児島県鹿児島市

※2024年11月2日に大分県大分市で開催予定だった2024年度おおいたワールドフェスタに出展予定でしたが、悪天候の影響により、企画は中止となりました。

○成果：出張サービスは6件対応でき、大分県以外の九州各県で実施いたしました。大分県で実施できなかった理由は、参加を予定していたイベントが台風で中止となったためです。他方今年度は地域の市民センター等自治体施設との連携が進み、市民向けのNGO入門講座を開催できたほか、アウトリーチ型として今まで相談対応や出張サービスの実施実績が少なかった地域で説明会や関係者との意見交換会を開催しました。出張サービスがきっかけで個別相談への問い合わせに繋がったほか次年度に出張サービスを活用した講座開催のご依頼を頂くなど今後につながる成果を生み出すことが出来ました。次年度はこれらのつながりを活かして九州全域での数多くの実施を目指してまいります。



▲ブース出展の様子



▲出張講演の様子

■ イベント参加・出展

○計画：各種イベントに参加・出展を行います。九州各県の国際協力推進員や、国際交流協会、行政、各地のNGO や関係機関と連携することで各地のイベントに多く出展することを目指します。

○実施と成果：2024年度は福岡市と佐賀市に出展を行いました。大分市にも出展予定でしたが、悪天候により中止となりました。イベント参加者の方からNGOや国際ボランティアに関する相談を承ったほか、FUNNや正会員団体の活動を知ってもらう良いきっかけとなりました。前年度と比べイベント出展があまりできませんでしたので、イベント出展に関する年間スケジュールを計画して積極的に九州各地で開催される国際イベントに出展することを今後検討していきたいです。

■ 講師派遣

○計画：大学や小中高校での総合学習の授業や公民館、市民・他団体の取組・企画に FUNN 職員などを派遣、および派遣の調整を行います。

【明日 FUNN計画24】

・教育機関との連携拡充は、FUNN 独自の NGO 相談員チラシ作成を通じ、取り組む。

○実施：出張サービスでの実施以外に、以下の講師派遣を実施しました。

- ・九州国際大学 国際協力実践論への講師派遣

6月24日：バングラデシュと手をつなぐ会 ニノ坂保喜さん

7月1日：トゥマンハティ福岡 弥栄睦子さん

7月8日：モザンビークのいのちをつなぐ会 榎本恵さん

7月16日：NGO福岡ネットワーク 塩塚洋平さん

○成果：参加者に国際協力やNGO活動について伝えることができ、当団体や他NGOへの参加のきっかけを作ることができました。教育機関との連携拡充については、具体的な実施はできておらず、検討を継続していきたいと思います。

1-4. NGO活動に関する人財育成

1-4-1. 2024年度の方針

下記目標の達成を目指します。

〔明日FUNN目標〕

- ・国際協力の担い手が育成できており、FUNNや加盟団体の活動への人的強化もできている。

1-4-2. 2024年度の活動

■ ボランティア

○計画：国際協力やNGOの活動に関心のある人をFUNNのボランティアとして受け入れ、また加盟団体の紹介などを行います。2024年度はFUNNボランティアのみでなく加盟団体とのマッチングについてシステムを検討します。また、あすみん等の公共施設やインターネット上でのボランティアの呼びかけを積極的に行っていきます。

【明日FUNN計画24】

- ・インターンやボランティアの受け入れ、マッチングの窓口、広報について検討する。

○実施：2024年度も適宜ボランティアの受け入れや、イベントに合わせてボランティアの呼びかけを実施しました。1名の社会人に庶務のボランティア等へのご協力いただきました。

ボランティア・インターンのマッチングについては、窓口等の検討はまだできていませんが、企業より受け入れの打診をいただき、FUNNとしての受け入れに加え、加盟団体にも紹介しました。

■ インターンシップ

○計画：FUNNの活動に携わるインターンを募集し国際協力に関わる人財の育成に取り組みます。

○実施：夏季3名、春季2名の学生インターンをドッドジェイピーより受け入れました。

また福岡市内の大学1校とインターン受け入れに関する提携を行いました。

○成果：ボランティアやインターン受け入れを通じ、国際協力に関心を持つ若い世代の方に体験の場を提供することができ、参加いただいた方々からも企画や広報に関して様々なインプットをいただくことができました。加えて、当団体に関わることで、加盟団体やその他関連団体との繋

がりもでき、国際協力に関する様々な活動に関わってもらえたことも一つの成果と考えられます。大学のインターン受け入れ制度については今後活用していきたいと考えています。



▲参加した大学生インターン

■ スタッフ研修

○計画：各種制度を活用し、スタッフの能力向上や経験の蓄積につながるような研修の機会を設定していきます。

【明日FUNN計画24】

- ・事務局員：伴走支援に関する研修に参加する。その他の研修にも随時参加していく。
- ・IT/ AI の活用による業務効率化を検討する。

○実施：

- ・7月・8月：NPO/NGO「支援力」応援プログラム現場の声から学ぶ！組織診断サポート研修受講（多原）
- ・9月：JVC九州ネットワークカンボジアスタディツアーへのスタッフ参加（松崎）
- ・9月：名古屋NGOセンター組織基盤強化研修受講（多原）
- ・11月～2月：NPOサポートセンター「NPOセキュリティ支援プログラム」

柿崎淑郎東海大学情報通信学科准教授による伴走支援5回と1月27日セミナー（理事・関係団体）～事務局全員と二ノ坂代表、原田副代表参加

○成果：セキュリティ管理マニュアル、プライバシーポリシー、個人情報保護規定、インシデント対応マニュアルを制定することができました。事務局・理事ともに個人情報保護や情報セキュリティの意識を高めることができました。またこの中でIT活用のヒントもいただいております。一部実施しています。他の研修についてもFUNNの業務にとって重要な内容であり、活動への参加者拡充・団体支援の視点等今後につながると考えています。

1-5. NGO間及び各種団体との連携促進

1-5-1. 2024年度の方針

国際協力の理解促進、発展、社会的課題の解決を目指して、NGOあるいはNGOとは異なるセクターを繋ぐことによる相乗効果を目指します。

【明日FUNN目標】企業と連携している。対政府・自治体から信頼されている。国内外のNGO/NPOから信頼され、様々なネットワークを持っている。

1-5-2. 2024年度の活動

○計画：下記取り組みや、これまで地域・全国のNGOとのネットワークを通じ、様々な団体との繋がりを充実していきます。

1 ネットワーク活動

現在ある繋がりを強め、繋がりを担う人財の確保にも努めます。まだ近年あまり実施できていない企業へのアプローチや連携の在り方について検討し、可能なところから実施していきます。

■ 福岡国際関係団体連絡会（FUKU-NET）

○実施：原田副代表が運営委員として参加しました。運営委員会6回。

- ・ 4月25日 2024年度総会兼201回連絡会
- ・ 7月30日～8月5日、福岡市役所 1 F加盟団体パネル展に出展。初日202回連絡会。
- ・ 10月21日 第203回連絡会「ブロックde学ぶ国際交流・協力活動編」
- ・ 2025年1月29日 第204回連絡会「アフガニスタンの軌跡～ペシャワール会中村哲医師の活動から～」

○成果・所感：最新の情報の共有の場となりました。

■ 多文化共生の担い手がつながるプラットフォーム福岡（たぶプラ・福岡）

○計画：NPO法人ISAPH及びJust Linkと協働で、多文化共生に関わる団体/個人が集まり、互いに協力し合うことのできる場作りの事業を実施していきます。

【明日FUNN計画24】

- ・（重点）2023年1月より開始している外国人支援団体のプラットフォームづくり事業に3団体協働で取り組む。

○実施：オンライン開催も含め合計5回の場合作りの事業（たぶプラミーティング）を実施いたしました。福岡・筑豊・筑後・北九州の4地域において、それぞれの地域で多文化共生に関わる方を対象とし、事例発表や意見交換を行いました。vol1は主に意見交換・事例発表を、vol2は多文化共生マネージャーの方にもご参加いただき、地域と行政との連携を目的とした内容としての実施をしました。vol2.5では「意外と知らない！？出入国在留管理局の仕事～プロとつながる！連携先としての入管～」と題して、講師に水本敦史さん（福岡出入国在留管理局 統括審査官）をお呼びし、出入国在留管理局の仕事についてお話いただきました。vol3では「外国人住民のヘル

スケアアクセスについて考えるー地域の力、再発見ー」と題し、福岡市では講師に佐藤 寛さん（開発社会学舎 主宰／みんなの外国人ネットワーク）、北九州では講師に村松 紀子さん（医療通訳研究会MEDINT代表）をお呼びし、主に医療の視点からお話をいただき、意見交換を行いました。vol4では「他地域の事例から学ぶ 多言語・多文化理解における『仲間』のつくりかた」と題して、講師に佐藤 寛さんをお呼びし、多文化共生における様々な地域の事例をご紹介いただき、意見交換を行いました。

それぞれの日時・場所等の詳細は下記となります。

	開催日時	実施場所	参加者数
vol1	・福岡：4/13 15:30～17:30 ・筑後：5/18 14:00～16:00 ・筑豊：5/30 14:00～16:00 ・北九州：5/31 18:00～20:00	福岡市：福岡市国際会館第一会議室 筑後：久留米市市民活動サポートセンター みんなくる 筑豊：イイツカコスモスコモン第二会議室 北九州市：北九州市立生涯学習総合センター21学習室	福岡：9名 筑後：4名 筑豊：8名 北九州：4名
vol2	・福岡+筑豊： 7/21 14:00～16:00 ・筑後：7/26 18:00～20:00 ・北九州：7/27 14:00～16:00	福岡市：福岡市国際会館第一会議室 筑後：久留米市市民活動サポートセンター みんなくる 北九州市：八幡西生涯学習総合センター	福岡+筑豊：11名 筑後：6名 北九州：1名
vol2.5	8/25 14:00～15:30	オンライン開催	14名
vol3	・福岡+筑後： 9/20 18:00～20:00 ・北九州+筑豊： 9/21 14:00～16:00	福岡市：ふれあい貸し会議室 博多東ビル605号室 北九州市：COMPASS小倉A会議室	福岡+筑後：6名 北九州+筑豊：7名
vol4	12/19 19:00～20:30	アクロス福岡2Fセミナー室・オンライン	36名

○成果：述べ106名の方に参加いただき、合計11回のミーティングを実施いたしました。

多文化共生という同じ分野で活動する方でもそれぞれの活動を知らないことが多くあり、「同

じような活動をしている人をもっと知りたい」という声や、たぶプラという場の必要性を参加者の方から聞くことができました。また関心はあったけれどこれまで多文化共生の活動をしていなかった方にとっても、参加のきっかけとなるような機会にできたと感じています。

今後の課題としては、活動の担い手は比較的時間が限られており、地方の資源が少ない地域ほど参加することが難しいことが挙げられます。次年度以降実施する中で、参加のしやすい工夫をする必要があると考えています。



▲たぶプラミーティングの様子 (vol.2)



▲たぶプラミーティングの様子 (オンライン)

■2024年度地域版NGO-JICA協議会（九州）ーラウンドテーブル（FUNN呼びかけ・運営）

【明日FUNN計画24】・多文化共生プラットフォーム、JICAとのラウンドテーブルを通じ、NGO等と各機関をつなぐ取組を行う。

実施：12月7日（土）JICA・NGOスタッフ・九州各地の国際関係機関関係者等21名の参加

議題：今回は「九州地方に国際協力の機運を高める」をテーマとし、①情報交換「九州の NGO等の知見から世界を視る」、②ディスカッション・テーマ「九州地方に国際協力の機運を高める」として、参加者同士の情報共有や、九州全体としてどのように国際協力の機運を高めていくかについての議論を行いました。

成果：今回は大学や初めて参加される団体もあり、繋がりを広げるきっかけづくりができたと考えています。今後、国際協力の機運を高めるための実装につなげたいと思います。



▲ラウンドテーブルの様子

■ 福岡NPO共同事務所びおとーぷ

・事務所を置いている福岡NPO共同事務所「びおとーぷ」には2024年度は8団体参加。月1回運営委員会を持ち情報交換等を行い、暑気払い会・大掃除・新年会・学生卒業祝会など交流の時間を持ちました。今年度は利用団体間での個人情報管理の面でFUNNとして他団体に迷惑をかけた事案があり、その後情報セキュリティ研修等を通じ、体制を整備し、またて1月27日情報セキュリティ研修はびおとーぷ利用団体との共同研修として実施しました。

■ その他の取り組み

下記の取り組みを通じ、ネットワークの構築や連携促進に努めました。

- ・2月4日NGO研究会テーマ「NGOと企業他との連携について」CSOネットワークによるヒアリング 4団体参加
- ・2月18日 全国ネットワークNGOの集い オンライン ネットワークNGOの課題、政策提言、ユースの巻き込みについて
- ・3月22日～23日 あどぼのプラットフォーム会合2024 テーマ:政策提言に関して（多原参加）

■ 2024年度関わりのあった機関・ネットワーク団体・事業者等

（特活）国際協力NGOセンター（JANIC）、（特活）関西NGO協議会、（特活）名古屋NGOセンター、他全国のネットワークNGO、（特活）NPOサポートセンター、（特活）テラ・ルネサンス、AfricAsia（アフリカジア）、（一社）外務省NGO協力推進室（旧民間援助連携室）、独立行政法人国際協力機構九州センター、JICA国際協力推進員、（公財）福岡よかトピア国際交流財団、福岡国際関係団体連絡会（FUKU-NET）、（公財）福岡県国際交流センター、コラボステーション福岡、福岡市国際政策課、福岡県国際政策課、福岡市NPO・ボランティア交流センター「あすみん」、（公）西日本シティ財団、福岡NPO共同事務所「びおとーぷ」、佐賀県国際交流協会、大分市国際課、長崎市市民活動センター「ランタナ」、熊本市国際交流振興事業団、宮崎県国際交流協会、鹿児島市国際交流財団、鹿児島県国際交流協会、EPO九州、福岡出入国在留管理局、NGO-外務省定期協議会、NGO-JICA協議会、市民社会スペースNGOアクションネットワーク、CSOネットワーク、NGO非戦ネット、G7市民社会コアリション、N:PIVO、あどぼ・していずんプロジェクト、JUST-Link、デメテルハーブティー、（株）ファイザー、（株）楽天カード、google、テックスープ

2.組織

2-1. 組織運営・体制

役員

【理 事】

二ノ坂 保喜／（特活）バングラデシュと手をつなぐ会 代表 [代表理事]
藤井 大輔／ 債務と貧困を考えるジュビリー九州 代表、九州国際大学現代ビジネス学部 准教授 [副代表]
原田 君子／（特活）NGO福岡ネットワーク 前事務局長 [副代表]
安村 妙 ／ JVC九州ネットワーク 代表
楠原 圭子／ アジア開発銀行福岡NGOフォーラム 事務局
本田 正之／（特活）NGO福岡ネットワーク 元事務局職員
弥栄 睦子／（特活）トゥマンハティふくおか 代表
河上 雅夫／ 賛助会員

【監 事】 吉田 睦 ／（特活）coco change 理事

事務局

【事務局長】 安村 妙

【事務局スタッフ】 松崎 浩平、多原 真美、塩塚 洋平

担当

【NGO-外務省定期協議会連携推進委員会】安村 妙

【NANCIiS】藤井 大輔

【FUKU-NET】原田 君子

【非戦ネット】二ノ坂 保喜／安村 妙

【NGO-JICA協議会 担当】佐藤 優（ISAPH事務局長）

- 通常総会：2024年度総会：5月19日（日）びおとーぶ会議室とzoomのハイブリッド開催
- 通常理事会：毎月1回
理事会開催実績：2024年4月19日、5月19日、6月20日、7月18日、8月22日、9月25日、
10月10日、11月14日、12月20日、2025年1月23日、2月19日、3月21日
- 事務局会議：毎週1回火曜日

運営

【明日FUNN目標】

- ①事務局 NPO法人および国際協力の中間支援団体として信頼され技術的に頼られる運営が実施されている。
- ②事業評価 適切な運営・事業評価等ができています。
- ③財政 複数の財源による安定した財政状況のもとで事業を行うことができています。

【明日FUNN24計画】

- ①1-4-2 スタッフ研修で挙げた研修（伴走支援他）参加。
 - ・IT/AI活用による業務効率化の検討
 - ②コンプライアンス・ハラスメント規定を制定する
 - ③これまで受けていない助成金、受託事業等について検討する
- 実施：
- ①研修参加。IT/AI活用は、会議記録、アイデア出し等に利用。
 - ②情報セキュリティ関連の規定等を整備した。他の規定は未制定。
 - ③8件の新規助成金・受託事業について検討の上、5件に応募。1件は協働団体として採択され本年度事業実施、2件不採択。2件は協働団体と自団体事業として採択され来年度実施。1件は2025年度に申請予定。いずれも多文化共生をテーマとしたもの。
- 成果：
- ①スタッフ研修では、スタッフ自身の伴走力、NGO活動への理解の深化、情報セキュリティ意識の増加を得ることができただけでなく、全国的なつながりもひろがり、NGO相談事業等に活かすことができました。
 - ②情報セキュリティ規定を優先したため、他の規定が整わず、次年度継続課題とします。
 - ③本年度資金となりえる2件が不採択であったことが影響して、本年度収支は赤字となりましたが、来年度に向けて取り組んだ助成金申請が採択され、来年度の財政安定には寄与できました。

2-2. 会員

正会員（全20団体）

(特活)ISAPH

認定NPO法人難民を助ける会（AAR Japan）

アジア開発銀行福岡NGOフォーラム

(特活)アジア女性センター

一般社団法人NTDs Youthの会

(特活)九州海外協力協会

債務と貧困を考えるジュビリー九州

佐賀NGOネットワーク

JVC九州ネットワーク

(特活)じゃっど

認定NPO法人地球市民の会

チベットを知る会

NPO法人トゥマンハティふくおか

ネパール歯科医療協力会(ADCN)

(特活)バングラデシュと手をつなぐ会

PP21ふくおか自由学校

福岡Y M C A

フレンズ国際ワークキャンプ九州

(一社)ミドリゼーションプロジェクト

(一社)モザンビークのいのちをつなぐ会

個人会員

賛助会員（個人） 15名

賛助会員（団体） 0

賛助会員（企業） 0

通信会員 13名

※2025年3月31日現在